

# ⑦福富型協働的な学び

本校では、小中一貫教育を生かした異学年集団や地域の人々との協働を通し、探究的な学習に取り組んできました。小学校第3・4学年、第5・6学年、中学校第1・2学年は複数学年で活動しており、協働の機会を充実させました。異学年で学習を行うことで、上の学年のリーダー性を育成したり、学習を下学年につないだりすることができます。

学校運営協議会を窓口として地域連携をすすめ、積極的に地域へ出たり体験したりしています。地域の方から学ぶことを通して、多様な視点から課題について考えさせるようにしています。ただ情報を収集するだけではなく、課題をよりよく改善するため、新たな方法を考えたり、地域の方に提案を行ったりしています。



# ⑧学校運営協議会

学校運営協議会には、地域との連携・橋渡し役をお願いし、学習支援体制を構築していただきました。地域で活動されている様々な専門の方々に声をかけていただき、地域人材バンクに登録していただきました。人材バンクを活用したり、学校運営協議会を窓口にしたりして取材・協力の依頼を行うことで、児童・生徒にとっての豊かな教育環境を作ることができています。また、コミュニティ・スクール推進員や地域学校協働活動推進員が学校と地域との連携の橋渡しになるような活動を行うことで、スムーズに地域と連携をすることができました。

地域の方々も地域に対する強い思いがあり、「こういうことを児童・生徒にさせてみてはどうだろう？」という意見もあります。しかし、本校では「子どものやりたいことを応援する」というスタンスでご協力していただきたいと常にお願ひしてききました。他者から課題を与えられるのではなく、自ら課題を見つけ探究を進める、主体性を身に付けるために大切な部分です。



# ⑨いよいよフィナーレ

単元末では、これまでの探究の成果を保護者やお世話になった地域の方、学校運営協議会の方に発表し、外部に発信します。中学校第3学年は、地域の特産野菜を使用した弁当の副菜の開発に関わり、弁当が実際に販売されたことなどを発表しました。しかし、課題によっては明確な結果が出ないまま単元末を迎えてしまうこともあります。「なぜ結果が出なかったのか?」「次はどうすればいいか?」しっかり考えさせます。探究的な学習の目的は、結果を出すことだけではなく、その過程で資質・能力の育成を図ることです。

# 福富小・中 探究マップ

福富町には、起業家や移住者が多く、魅力的な場所も数多く存在しています。福富小・中学校職員は「この豊かな地域を活用し、様々な人と出会い、思いや考えを知ることで、主体的に探究的な学習を行うことができるのではないか?協働的な学びを展開することで福富の地域に誇りを持ち、自己の生き方について主体的に考えることができるのではないか?」と考え、郷土福富を題材にした探究的な学習を進めました。3年間で関わっていただいた施設、探究の対象となった場所などを紹介します。ここには掲載しませんが、他にも域外で関わっていただいた施設もあります。

- 関わりのある施設・場所
- 小1
  - 小2
  - 小3・4
  - 小5・6
  - 中1・2
  - 中3

## ●ミコシギク

ミコシギクは「遺存植物」と言われており、広島県内では福富町内にしか自生していないとされている貴重な植物です。

中学生が保全活動を行っていることを知った学校運営協議会が中心となって、専門家や地域の方と「福富のミコシギクを守る会」を設立しました。



## ★ 東広島市役所 福富支所 生涯学習支援センター 社会福祉協議会 久芳地域センター

- 【小3・4】育てた野菜を使い、協力して地域のイベントを開催しました。
- 【中1・2】ごみ拾いを行って、出てきた疑問の解説、市の取組事例を紹介していただきました。
- 【中3】町内における、住民支援活動についてのインタビューや活動を行いました。



## ★ 道の駅 湖畔の里 福富

- 【小2】どんなものが売られているか、どんな人が働いているか探検して調べました。
- 【小5・6】道の駅で開催されたアクアフェスタで、「みんなを笑顔にする」をテーマに、スタンプラリーやワークショップなどを企画し実施しました。
- 【中1・2】福富町の観光マップを作成し、掲示していただきました。

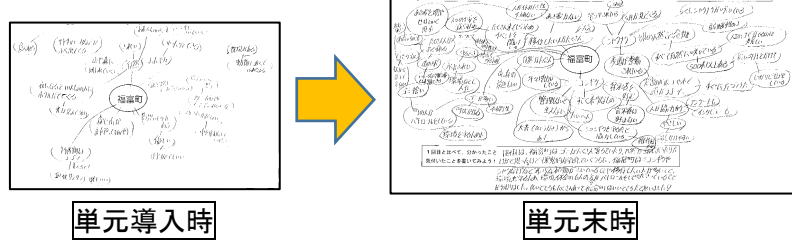




# 福富流 地域を題材にした「探究的な学習」の進め方

## ①まずは実態把握！

小学校第1学年から中学校第3学年まで同じ形のイメージマップを使用し、児童・生徒が地域のことをどのように感じているのかを実態把握しました。個々が**地域のよさだ**と感じていること、**地域に対して思っていることを把握**することで、異学年集団の実態に合ったテーマを設定することができました。



単元末時に同じイメージマップを書くことで、児童・生徒は、**自らの成長を客観的に感じる**ことができます。

## ②「ワクワク」が大切

テーマを設定した後に、学習活動の流れをまとめたストーリーを可視化した「単元ストーリー」を作成することで、教職員間の連携ができ、同じ視点で児童・生徒の資質・能力の育成にあたることができます。

次に、単元導入時の学習指導案を作成します。ここで大切なのは、**児童・生徒が「やってみたい、探究したい！」**と思うような単元との出会いです。

＜※例えば小学校第3・4学年学級園を見に行く→大豆が食べられている！→足跡がある、動物が犯人だ！→…福富の森は豊かじゃないの？＞

ワクワクするような単元との出会いが、探究を進める原動力になります！

**課題設定のポイント**

- ・発見・疑問を大切に
- ・地域へ Let's go!
- ・自分は何ができる？

## ③ループリックの開発

目指す資質・能力を明確化するため、9年間を系統的に考えたループリックを開発しました。下図は令和4年度に作成したものです。赤字は令和3年度のものを

変更したところです。児童・生徒の実態や単元の特徴などに応じて、**定期的に妥当かどうかを検討していく必要があります。**

協働性	レベル	主体性
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 責任: 役割をもち、最後までやり抜こうとしている。</li> <li>● 土共感: 他者の意見を聞き、自分の意見と違った場合でも、そのよさを認め、共感しようとしている。</li> <li>● 土ペア意識: 他者の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を客観的に捉えながら課題解決に取り組もうとしている。</li> <li>● 土協働の活用: 自他のよさを生かしながら、協力して課題解決に取り組もうとしている。</li> <li>● 土合意形成: 協議をすることによって、合意形成を図ろうとしている。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主体的思考: 課題について、自分の意見をもち、前向きに取り組もうとしている。</li> <li>● 土目的意識: 目的をもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>● 土意識: 課題解決に向けて、見通しをもち、自分で目標を立てながら学習に取り組もうとしている。</li> <li>● 土高い視野: 課題解決に向けて、自らさまざまな視点で考えようとしている。</li> <li>● 土意識の活用: 設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、結論を導き出そうとしている。</li> </ul>
	2	
	3	
	4	
	5	

## ④資質・能力の提示



ループリックについてよく言われることは、「子どもたちに具体的なループリックを提示すれば、子どもたち自身が資質・能力の育成を意識して活動するのではないか？」ということです。ゴール地点が明確になれば、確かに進みやすいと思います。しかし、ゴールにたどり着いてしまえば、それ以上の成長を目指して活動を進めることが難しくなることも考えられます。**進んでいる子どもの成長を止めないためにも、本校では詳細なループリックは教師側のみがもち、子どもたちにはこのような項目だけを提示する**という形で進めています。

## ⑤学びの可視化

他のグループの学びの過程が分かるように、「探究ロード」という掲示の場を設置しました。常に同じ展示をするのではなく、**学習の進捗状況に合わせて変化していく**掲示です。また、掲示するだけでなく、**児童・生徒が他者に「見てほしい」と思ったもの等も設置できるように**することで、主体的に学ぶ意欲の向上につながり、**児童・生徒、教員も活用できる場**となっています。小学校第3・4学年は、写真や地図で学習の様子を知らせるだけでなく、川グループが川で捕獲した生き物を展示しています。



## ⑥Project team「FIT」

小・中の教職員が同じベクトルで探究的な学習を進められるよう、FIT (Fukutomi Inquiry learning Team) を組織しました。**研究推進リーダーを中心に、管理職、研究主任、生活科担当教員などで構成したチームが主体となり、研究を進めました。**ループリックの開発や資質・能力の提示の仕方、児童・生徒の主体性・協働性を引き出す効果的なファシリテートの在り方についての研修を計画するなど、学校全体で探究的な学習を推進するために様々な取組を行いました。

研修情報の共有や進捗状況の交流を目的として作成した研究推進通信もその取組のうちの一つです。ぜひ福富小・中学校HPでご覧ください。

広島県「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」指定校  
兼 令和4・令和5年度東広島市教育推進指定校

東広島市立福富小・中学校



# 探究のあゆみ

本校が研究を推進してきた「探究的な学習」は、地域での様々な人たちとの出会いや体験を大切にしながら進めてきました。このリーフレットでは、地域とともに歩んだ3年間を紹介します。

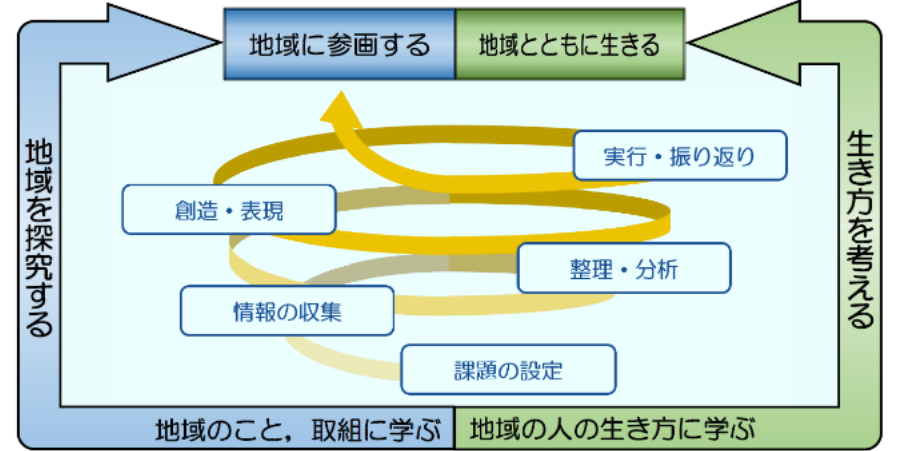
## 研究構想図



**学校教育目標**  
夢と志をもち 今を大切に生きる児童・生徒の育成  
児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力  
「主体性」「協働性」「自己の生き方を考える力」

**研究主題**  
福富の地域に誇りをもち、自分の生き方を考える児童・生徒の育成  
～ 地域における探究活動と協働的な学びを通して ～  
**研究仮説**  
生活科や総合的な学習において、郷土福富を題材とした探究活動を進め、協働的な学びを展開することによって、福富の地域に誇りをもち、自己の生き方について主体的に考えることができるであろう。

### 探究的な学習(生活科・総合的な学習の時間)



**カリキュラムマネジメント**

- 育成すべき資質・能力の明確化、ループリックの開発
- 福富型協働的な学びの展開
- 学校運営協議会を活かした学習支援体制の構築
- ファシリテートの工夫
- 地域題材の教材化と単元構成の工夫
- 学びの過程の可視化

異学年集団での学び 小規模・小中一貫教育校	個別最適な学び コミュニティ・スクール(学校運営協議会)	アントレプレナーシップを育む学び
--------------------------	---------------------------------	------------------